

第2章：聴覚障害者が感じるハンディキャップ

聴覚障害は「見えない障害」といわれ、外見からは障害の有無がわかりません。

そのため、聴覚障害者が抱えるハンディキャップも気づかれにくい側面があります。聴覚障害者が生活のうえで抱えているハンディキャップには次のようなものがあり、それぞれに対して適切なサポートが必要です。

！ 聴覚障害者が感じるハンディキャップ

◆コミュニケーションの仕方を理解してもらえない

意思疎通ができず、もどかしい思いをすることがあります。



◆放送や連絡がわからない

校内放送や駅のアナウンスの内容がわからず、必要な情報が得られないことがあります。



◆授業がわからない

授業に出席しても内容がつかみにくく、教科書や書かれた文字を読んでいるだけになります。



◆友達や同僚との会話に入れない

まわりの学生が笑っていても、聴覚障害学生には会話の内容がわからないことがあります。



◆音に反応する行動がとれない

周囲の音から状況を判断して行動することができない時があります。



◆呼び出しや放送がわからない

名前を呼ばれたり、大事な連絡があってもわからないことがあります。



◆討論についていけない

他の学生との意見交換が目的のゼミにおいては、討議に参加することが難しくなります。



💡 考えてみよう！

- ◆上記以外に生活の中でどのようなハンディキャップがあるでしょうか？
- ◆聴覚障害者に対して、どのようなサポート・配慮が必要でしょうか？

? どのようなサポートが可能ですか？

状況や相手に合わせたサポートが必要になります。

- ◆周囲の人が、聴覚障害やコミュニケーション方法について理解し、本人に合う形でコミュニケーションをとっていく。
- ◆車・自転車が近づいてきた時は、周りの人が気付かせてあげる。
- ◆ノートテイクや手話通訳を手配する。
- ◆音声情報を、字幕や掲示板、メールなどの文字情報に変換して伝える。
- ◆振動式呼び出し器、お知らせランプなど、振動や光で伝える機器を用いる。

🔍 改善されつつあるハンディキャップ

【映画の字幕】 以前は洋画にしか字幕が付きませんでした。現在では日は限られているものの字幕付きの邦画を放映する映画館も増えてきています。この情報は映画館 HP から確認できます。

【インターネット・携帯電話】 これらにより聴覚障害者の情報収集やコミュニケーションの幅が広がりました。

【運転免許】 以前は運転免許取得ができませんでしたが、2008年に条件付きで取得できるようになりました。